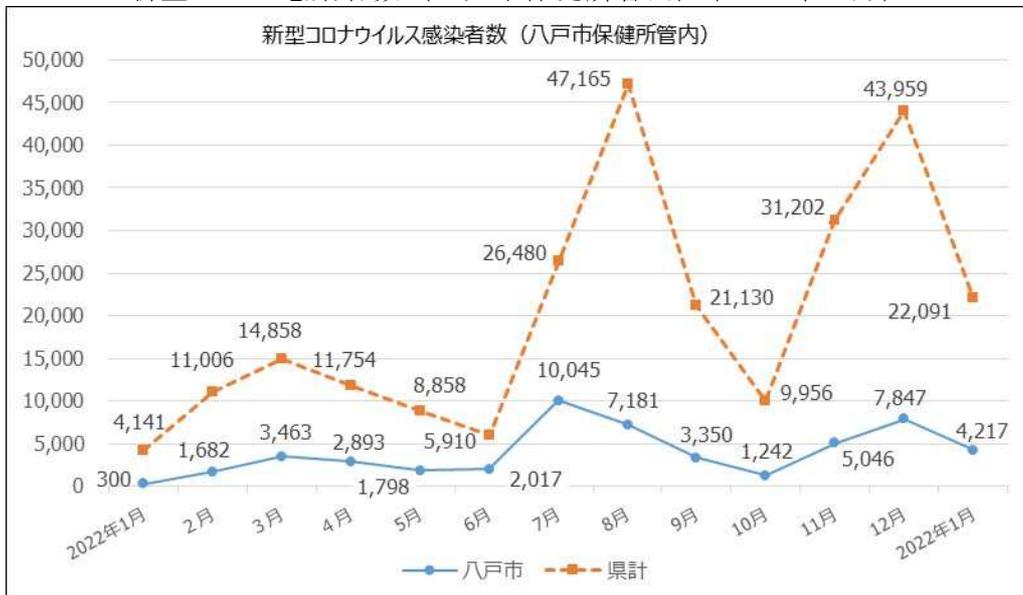


## 【個人消費：八戸地区】

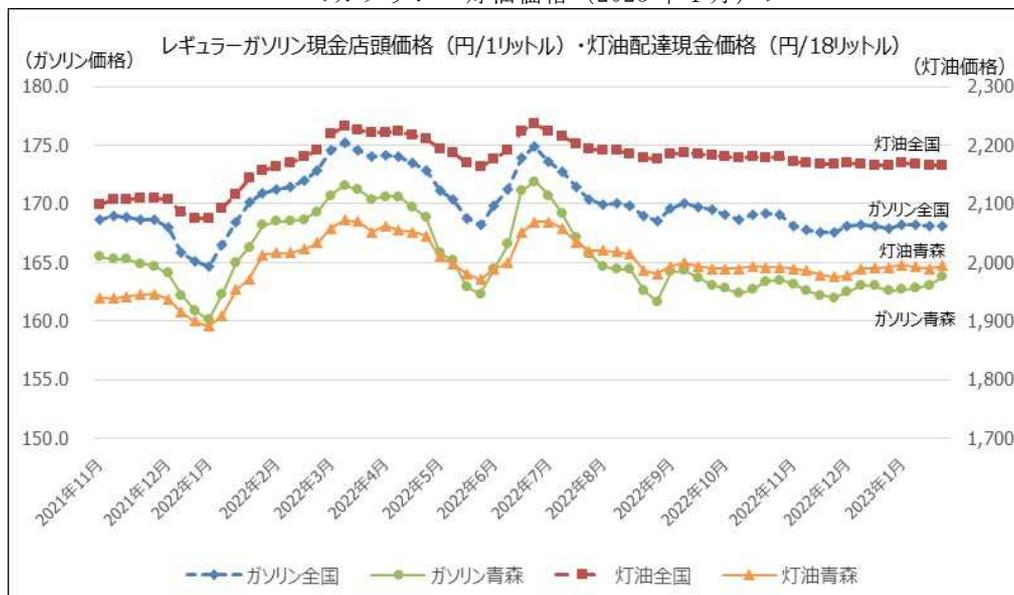
- ・八戸地区における新型コロナウイルスの感染者は、第8波に入り感染者数は12月になって増加したが1月は4,217人と減少に転じた。重症化例も少なく感染対策も浸透していることから個人消費への影響も第7波ほどではないと考えられる。
- ・ガソリン価格も灯油価格も、全国の価格水準を下回っており、比較的価格変動も少なく、ガソリン価格は11月から160円台前半から後半で推移し、灯油価格も1,990円台となっている。
- ・他方、食料品を始めとする日用品の値上がりや、電気料金・ガス料金などの高騰が家計に大きな影響を与えており、売上の伸び悩みの要因となっている。また、八戸市のプレミアム商品券も利用が一巡している状況。
- ・また、八戸地区は、1月後半寒波に見舞われ。まとまった降雪もあったため、個人消費全般で、来客数の減少と売り上げの伸び悩みが見られた。
- ・総じて各業種において、昨年秋以降、極端な不振とはなっていないものの、しかし、本格的な業況の回復・増加には至っていない企業がみられ、堅調ではあるものの不透明な状況が前月同様依然として続いている。

< 新型コロナ感染者数（八戸市保健所管内）（2023年1月） >



資料出所：青森県健康福祉部保健衛生課（2022年9月以降は疑似症患者除く）

< ガソリン・灯油価格（2023年1月） >

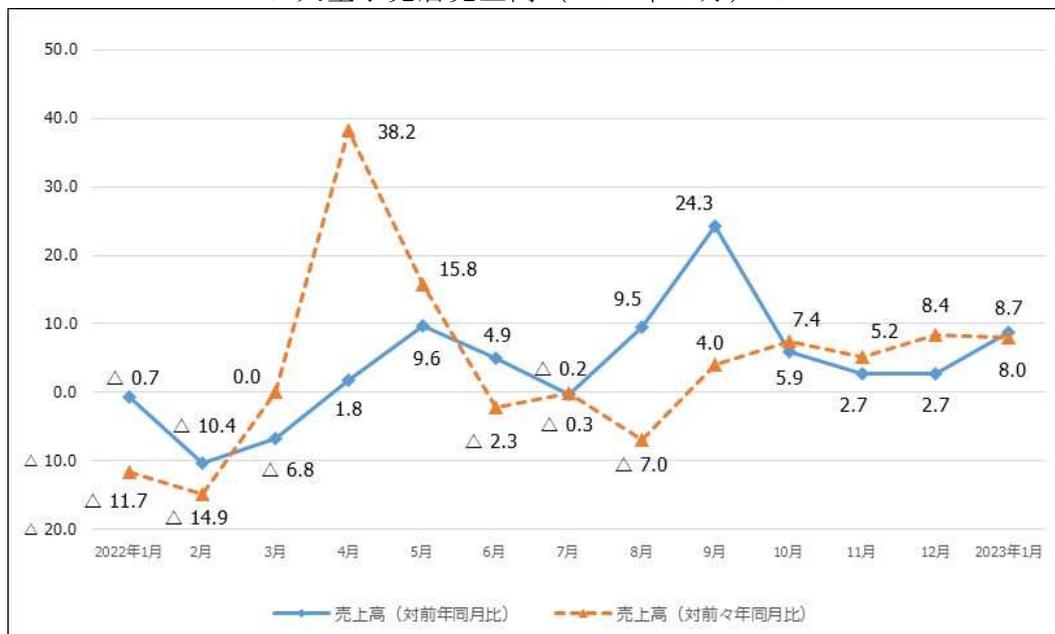


資料出所：エネルギー経済研究所 石油情報センター

- ・ 婦人服：初売りなどをやった店舗は、売上げが良かった模様。また、店舗によってはフリーのお客様の来店も見られた。全体的に、カーディガンやセーターなどが売れた。コートなど重衣料は単価が高いため売上げ的には大きいですが、寒さが厳しかった昨シーズンに購入した人が多かったようで、今シーズンの伸びは鈍い。
- ・ 紳士服：1月は全般的に良かった。スーツ類の他に、カジュアルウェアが良かった。特にカシミアのセーターなどが売れた。帰省客の来店も見られ、売上げもあった。オーダー店も相変わらず順調。学割（2万円台）の反響はかなり大きい。スーツを誂えたお客様が子どものスーツを作るよう勧めて来店する例もある。女性客も増えている。ネットによる集客が功を奏している。
- ・ 靴：1日から初売りを行ったが、期待したほどの伸びはなかった。その後、正月休み明けから月末までで取り戻したが、初売りの鈍さが響き、トータルでは昨年をやや下回った。ただし、売上げが伸びなかったのは季節商品で、それ以外の通常商品は売れており、売上げが鈍い中で、評価できる点だった。特に、ブランドスニーカーをはじめとするスニーカーは動きが良かった。
- ・ 大型家電量販店：初売りは客数が多かった。帰省客が増えたことによると思われる、スマホ、PCなどが売れた。1月下旬の寒波によりオール電化の世帯や全室暖房の世帯などで電気料金高騰に対する対応に懸念が高まっている。また、寒波のため水道が凍結して修理の問い合わせが多数あったが、対応に時間がとられるものの、そのまま売上げにつながるわけではなく苦慮した。新型コロナウイルスの5類移行を控え、マスクを外すことを想定して、理美容家電を中心とした関連商品への問い合わせが増え、売上げも伸び始めている。
- ・ 家具：客数・売上げ共に伸び悩んだ。特に家具類の動きが鈍かった。2月を前に閑散期に入ったと見るべきかもしれない。加えて、八戸市のプレミアム商品券も多くの人がほぼ使い切ったとみられ、利用はかなり減った。他方、売上げが良かったのは、洗濯・清掃用品など。帰省客が帰り後片付けするための購買とみられる。同様に、布団圧縮袋や収納用品なども売れた。
- ・ 時計・宝飾品：初売りはまずまずの売上でスタートしたものの後が続かず、1月はやや伸び悩みとなった。生活関連品の諸物価の高騰は大きく、可処分所得の増減で売上に影響がある宝飾品は伸び悩んだとみられる。電池交換などのメンテナンスは相変わらず忙しさが続く。金プラチナは高止まりとなって動きも鈍くなったが、ウクライナ情勢次第で大きく動くことも予想される。

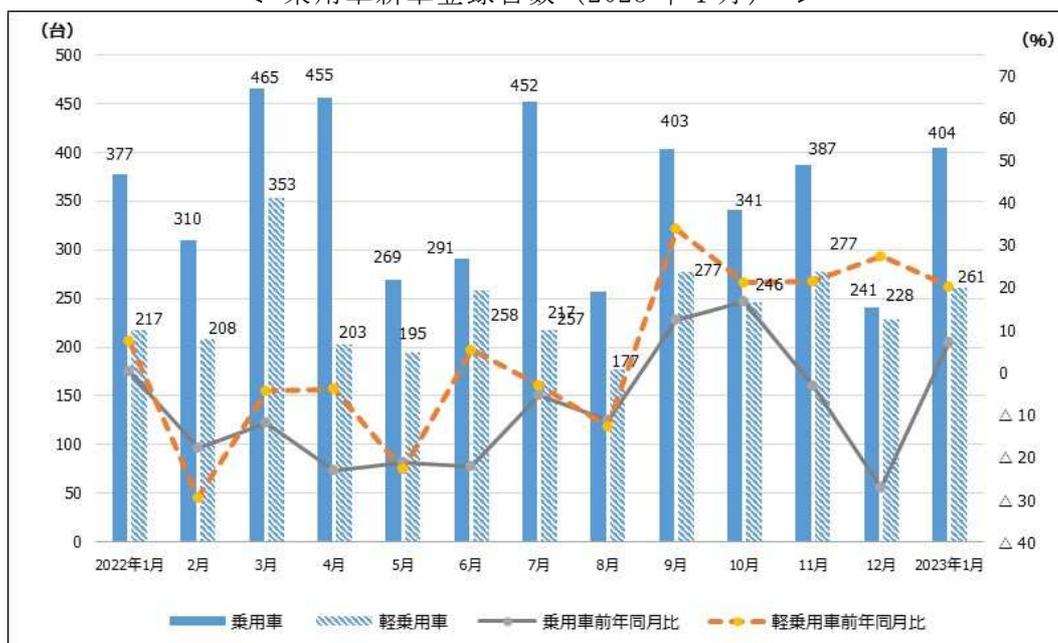
- ・市内大型小売店（4店）の売り上げは、4店舗合計で、前年同月比 8.7%増と 6 カ月連続して前年同月比増となり、増加幅も広がった。また、前々年同月比に関しても 5 カ月連続して増加し、8.0%増となった。
- ・帰省客の数も多く、大型小売店への来店による食堂やフードコートの利用が多かった他、帰省客をもてなすためのすしなどの鮮魚やオードブルなどの総菜類を中心とした食料品が好調だった。

＜ 大型小売店売上高（2023年1月） ＞



- ・新車登録台数は、普通乗用車が 233 台で前年同月比 20.7%増と前年同月比増に転じた。小型乗用車は前年同月比で 7.1%減の 171 台と 3 カ月連続の減少となった。普通乗用車と小型乗用車を合わせた乗用車全体は前年同月比 7.2%増の 404 台と 3 カ月ぶりの前年同月比増となった。
- ・軽乗用車は、前年同月比 20.3%増の 261 台と、5 カ月続けて前年同月比増となった。

＜ 乗用車新車登録台数（2023年1月） ＞

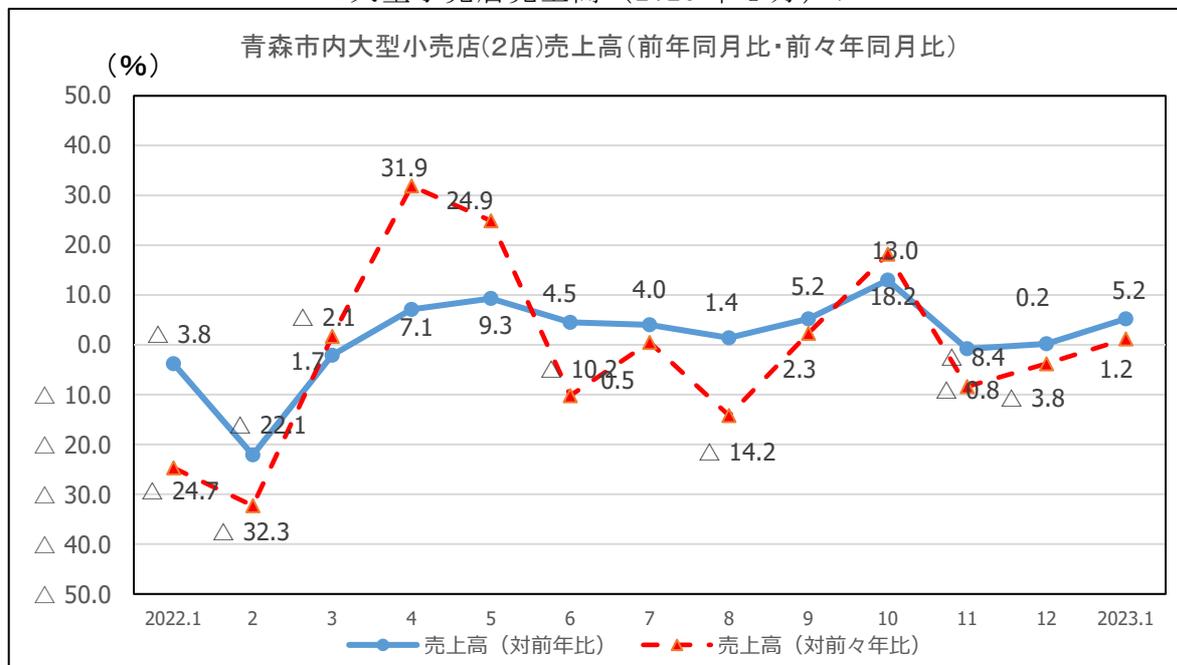


乗用車 404 台、前年同月比 7.2%増（普通乗用車 233 台 20.7%増、小型乗用車 171 台 7.1%減）  
 軽乗用車 261 台 前年同月比 20.3%増

## 【個人消費：青森地区】

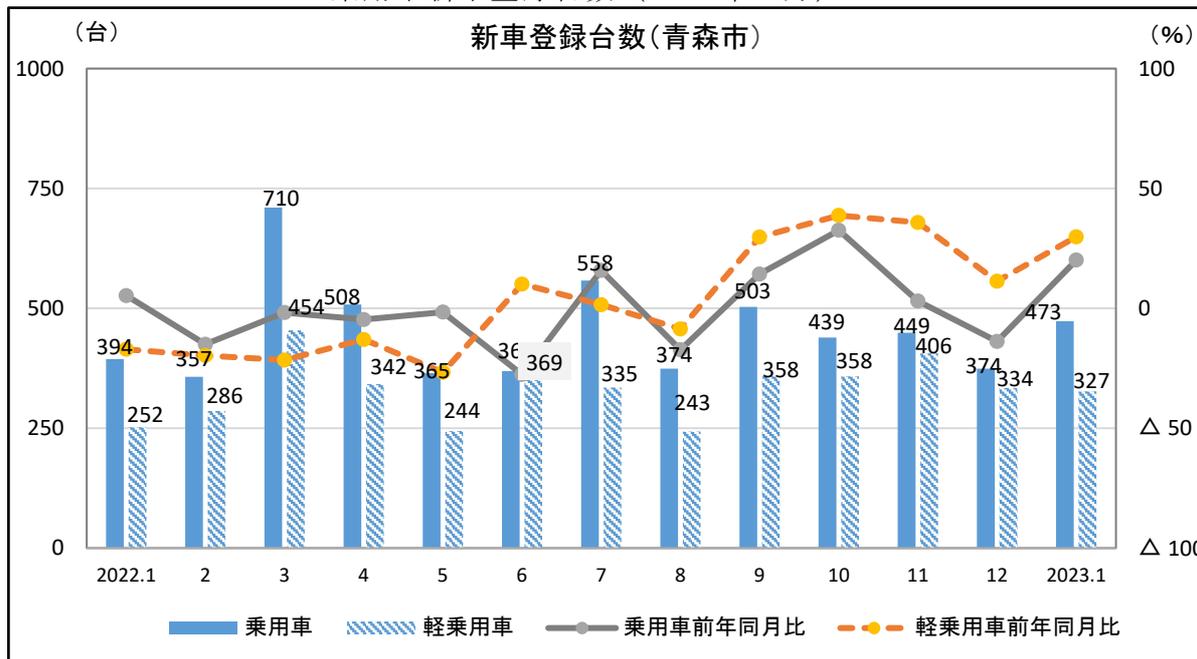
- ・ 1月は、上旬と下旬は平均気温が低下し降雪も多かったが、新型コロナウイルス第8波のピークが過ぎ行動制限のない年末・年始を迎え、帰省客の来客数は回復の兆しが見られた。売上げを伸ばす店舗も見受けられたが、コロナ以前の水準にはほど遠い状況。
- ・ 婦人服洋品は、1月は初売りと福袋の販売に力を入れていた。12月に続き1月も気温の低下と降雪があったことで、アウター、ニットを中心に伸びた。
- ・ 紳士服洋品は、フォーマル、コート等の防寒着は12月に続き動きが鈍かったが、初売りの福袋は良かった。加えて、1月から取り扱いが開始された「プレミアム付商品券」により、ビジネススーツが売れた。特に、女性向けビジネススーツの売上げが良かった。
- ・ 靴は、新年の初売りの客足は例年並みだった。1月は平均気温が低下したことに加え、降雪もあったことから、冬物商品の動きが好調であった。特に、長靴、ダウンブーツが、紳士物、婦人物ともに伸びたことで、前年を上回る状況となった。他方、子供物については商品が品薄状態となり苦戦した。
- ・ 家具は、行動制限が緩和され客足は前年より増加した。主力のベッドやソファが、新築需要から高価格帯商品の売れ行きが良かった。加えて、1月から取り扱いが開始された「プレミアム付商品券」により、キッチン用品、インテリア用品等の生活用品が伸びた。
- ・ 家電は、平均気温が低下したこともあり、石油ストーブ、ポータブルの電気暖房機器が伸びた。洗濯機は高性能の高価格帯商品が好調で、パソコンは買い替え需要と大学生の入学準備で伸びている。他方、テレビ、冷蔵庫は低調であったものの、総合的には前年並みの状況となった。
- ・ 大型小売店（2店）は、初売りの福袋が好評で1日目大きく伸ばしたものの、2日目以降は苦戦した。中旬以降は婦人衣料を中心に冬物クリアランスで売上げを挽回した。2店舗合計の売上げは、前年同月比5.2%増となり、前々年同月比においても1.2%増と先月の減少から増加に転じた。

< 大型小売店売上高（2023年1月） >



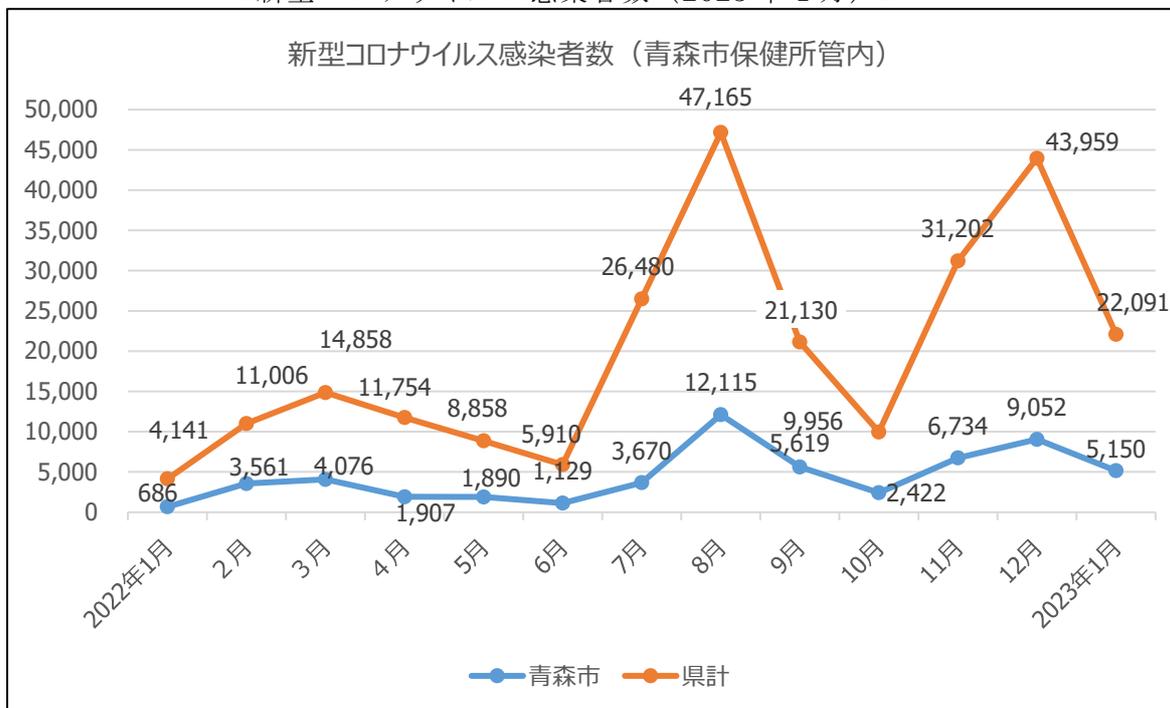
- ・新車登録台数は、普通乗用車が前年比 38.4%増と 5 カ月連続で増加、小型乗用車が前年比 3.8%増と先月の減少から増加に転じ、普通乗用車と小型乗用車を合わせた乗用車全体においては、普通乗用車の大幅な増加により前年同月比 20.1%増となり前年を上回った。軽乗用車は、同 29.8%増と 5 カ月連続で増加となり前年を上回っている。

<乗用車新車登録台数（2023 年 1 月）>



乗用車 473 台、前年同月比 20.1%増。(普通車 38.4%増、小型車 3.8%増)  
 軽乗用車 327 台、前年同月比 29.8%増。

<新型コロナウイルス感染者数（2023 年 1 月）>



資料出所：青森県健康福祉部保健衛生課（2022 年 9 月以降は疑似症患者除く）